

< 実践事例 台東区立谷中小学校 >

1. 取組・活動名

「おもてなし英会話」

2. 取組・活動のねらい

- おもてなしの心をもって、友達や他者を大切に、共に生きる人を育てる。
- 日本の伝統文化を誇りとし、異文化社会に興味・関心を持ち行動できる人を育てる。
- 地域や自分を愛し、健康で夢に向かって努力する人間を育てる。

3. 教育課程上の教科名・時数

「総合的な学習の時間・各学年10時間程度」他

4. 実施上の工夫

- ・第1学年・第2学年は、英語の音声や基本的な表現に慣れ親しむことをねらいとした活動を行った。
- ・第3学年・第4学年は、目的や場面、状況などに応じた様々な英語の表現を知り、「聞くこと」や「話すこと」を中心とした体験的な活動を取り入れ、身近で簡単な英語の表現に慣れ親しむことをねらいとした活動を行った。
- ・第5学年は、「読むこと」や「書くこと」を新たに加え、相手に配慮しながら主体的にコミュニケーションを図る態度や技能の育成をねらいとした活動を行った。
- ・第6学年は、外国の方や文化に対する理解を深め、これまでに学んできたコミュニケーションのための技能や態度を生かし、身近で簡単な英語を使って自分の気持ちや考え方を表現する力の育成をねらいとした活動に取り組んだ。

5. 本取組・活動の内容



「デンマーク大使館・デンマークから来日した高校生との交流（全学年）」

- ・日本・デンマーク外交関係樹立150周年交流 推進事業と連携し、平成30年2月にデンマーク大使館を訪問して両国の文化を紹介し合うなどの交流を行った。
- ・デンマークから来日した修学旅行生を本校に招き、谷中小学校の学校生活を英語によるプレゼンテーションで紹介をしたり、レクリエーションを行ったりするなどの活動に取り組み、外国の方や文化に対する理解を深めることができた



「長期海外留学経験者との交流」

- ・早稲田大学在学中の帰国子女や日本に留学している学生が中心の「セカクル」というサークルが来校し、第5・6学年の各クラスで英語を使った交流を行った。
- ・各クラスに10人程の学生が入り、少人数グループでゲームをしたり歌を歌ったりするなどの、体験的な活動を通してコミュニケーションを図る基礎となる資質や能力の育成を図った。



「『おもてなし英語検定』の実施」

- ・「おもてなし英語検定」は10級から1級まであり、その内容は、アルファベット、曜日や月、特別教室の言い方、自己紹介や道案内などがある。
- ・主に休み時間などにALTが採点者となり、成功体験を積み重ねた。検定に合格をした児童は知識や技能の定着を通して、英語に対する興味や関心を高めた。

6. 成果

- ・「おもてなし英会話の時間は楽しいですか」という質問（4段階評価）に対して、「楽しい」や「まあまあ楽しい」と回答した児童の割合が100%であった。英語を使ってコミュニケーションをすることに興味や関心を高めることができた。
- ・「おもてなし英語検定」を実施することで、基礎的な英語力を身に付けさせながら外国語活動の授業や、世界のひととの交流などに主体的に取り組む態度を育むことができた。
- ・「おもてなし英会話」を進めることで、学んだ英語を使ってコミュニケーションを図る楽しさや喜びを実感する児童が増加した。自分の英語が通じることで、さらに英語を学びたいという意欲が高まった。